金　井　中　だ　よ　り

令和６年１月２３日

第９号

校長　仙北屋正樹

地震の言い方	英　語	Earthquake（ｱｰｽｸｴｲｸ）	寒いの言い方	Cold（ｺｰﾙﾄﾞ）
	スペイン語	Terremoto（ﾃﾚﾓﾄ）		Frio（ﾌﾘｵ）

今こそ「みんなの会」への参加を！
能登半島地震を教訓に！

遅ればせながら新年明けましておめでとうございます。今年も生徒のみなさん、保護者のみなさんが幸せになれる一年であることをお祈り申し上げます。私たち教職員も一生懸命に教育活動へ励んでまいりますのでよろしくお願いいたします。

気持ちよく２０２４年をスタートさせたいと思っていましたが、夕方にテレビから聞こえてきた緊急地震速報、みなさんもびっくりしたと思います。そして、アナウンサーの高台への避難を呼びかける声。誰もが何でお正月なのにと思ったのではないでしょうか。それからは、お正月番組も地震を伝えるものへと変わっていきました。東日本大震災・阪神淡路大震災・熊本地震など、被害の大きかったものをみなさんも思い出したと思います。それに追い打ちをかけるような羽田の航空機事故です。思わず、生徒や保護者のみなさん、また教職員が事故に巻き込まれていないかを心配しました。それから数日は、私の携帯電話が鳴らないことを祈りました。それと合わせて、地震により亡くなられた方が、日に日に増えていき、その中には帰省されていた方も多数いらっしゃることもわかるに従って、お正月から一週間ぐらいは携帯を持ちたくない日々でした。行方不明の方が早く見つかることをお祈りしております。

さて、今回の能登半島地震では、家屋の倒壊で多数の方々が亡くなられています。新聞などの報道によりますと、地域でこの家に誰が住んでいたのかがわかっていれば早く助けられたが、それがわからないために救出が遅れてしまったという報道がありました。この金井地区で地震が起きた場合、津波の危険はありませんが、家屋の倒壊の危険はあり得ることです。みなさんは自宅周辺の方々とのお付き合い、お子様を通じた保護者同志のお付き合いはありますか？地震などの災害が起こった時は、そのお付き合いが命を助けてくれる可能性があるのです。その場が「みんなの会」なのです。

また、避難場所はやはり地域の学校でした。先月号にもそのことを書きましたが、まさかこんなに早く目の当たりにするとは思いませんでした。金井中が避難所となれば、そこで見知らぬ人との生活が始まります。でも、その多くは金井中の卒業生や在校生とその家族のみなさんと地域の方々になるでしょう。その人々が普段から少しでもつながっていれば、早くたくさんの人を助けることもでき、避難所での生活も穏やかに譲り合いながら送れる可能性が高くなります。つまり、これから発足する「みんなの会」はそのためのものなのです。学校のお手伝いは最小限でかまいません。いざという時に助け合うための会なのです。ぜひ、ご協力をお願いいたします。最後に新聞記事を紹介します。「Ａさん（３６）は小学１年生の時に起きた阪神淡路大震災で自宅アパートが倒壊。家族５人全員が下敷きになった。駆けつけた親族がＡさんを救出。その後に両親も救出されたが、弟２人は犠牲となった。周辺で大規模な火災が起きていたため、Ａさんは両親が救出される前に近所の人と避難所へ移った。携帯電話が普及していない時代。父親がＡさんのいる避難所を見つけ出して再会できたのは、地震の１週間後であった。「両親が助かったかどうかもわからず、体育館は寒くて空腹。余震は恐怖だったと振り返る。」そんな時、声をかけてくれたのが周囲の大人たちだったという。「地震が来てるけど、大丈夫！」とずっと声をかけてもらい、それで気持ちを保っていた」自信の経験を踏まえ、能登半島地震で被災した子どもたちに心を寄せた。「余震も続いていて、すごく恐怖がある時期だと思う。まわりの大人が声をかけてあげたら、子どもたちは安心できるかもしれない」（朝日新聞より）

希望校合格を目指してガンバレ！

新年を迎え、いよいよ３年生は大事な時期を迎えました。

本番を前に、昨年から面接練習を始めています。私も面接官となっていろいろな質問を投げかけましたが、みなさんよく練習をしているだけあって、うまく対応できているのには感心しました。それでも、緊張してしまうのは仕方がありません。誰もが同じです。それでは、その緊張を少しでもとれるように、いくつかアドバイスをしたいと思います。

１．緊張をとるために挨拶をしっかり

・先日、マナーの勉強をしたと思います。挨拶がよければ面接官もうれしくなります。まずは、はっきりした声で挨拶をしましょう。最初の滑り出しがよければ緊張もとれていくものです。挨拶に迷った時は何度でも挨拶して下さい。

２．話は長くならないようにわかりやすく

・質問に答えると、どうしても「あれも言おうこれも。」となりがちです。でも長くなると自分で言っていることがわからなくなり、まとまりのない答えになってしまいます。それに気付くと緊張は倍増していきます。面接官はわかりやすい答えを期待しています。長い答えより、わかりやすく短い答えです。

３．面接官に質問させましょう。

・面接官は一日にたくさんの人と面接をします。大変です。その上、長い答えを聞かせられたらどう思いますか？嫌になりますよね。それを避けるために、面接官に質問できるタイミングをあげましょう。方法は簡単です。答えをわかりやすく簡潔に短く言えばいいのです。それに対して面接官が興味を持ったら質問してくるはずです。うまい面接は、相手に質問させることなのです。そうすれば、自分自身も覚えてきたことを完璧に言わなければならないプレッシャーから解き放たれ、緊張感がかなりとれるはずです。試してみて下さい。

★最後に

・面接の目的は、完璧に答えられるかを試すのではありません。また間違いを減点するものでもありません。受験者の人間性をみているのです。わからない時には「わかりません。貴校に入って勉強していきます。」などと対応すればいいのです。そして余裕があれば笑顔で対応できると最高ですね。１月２６日（金）から都立推薦受検が始まります。頑張って下さい。

２年生が職場体験に挑戦しました！

１月１６日（火）～１８日（木）の３日間、２年生は職場体験に出かけてきました。これは、働くことの意義や楽しさを実際に体験してもらい、将来の夢を膨らませてもらいたいという主旨から行っているものです。コロナの関係で、ここ数年実施できませんでしたが、やっと再開することができました。生徒にとっては、いつも保護者の皆さんに守られている立場から、「自分が人のためにつくす、守ってあげる」ということを相手にしてあげることは初めてだと思います。生徒は、幼稚園・保育園・介護施設・スーパー・美容院など様々な職場で体験をさせていただきました。私も見学に行きましたが、小さな子どもたちと遊んであげたり、遊具をきれいにふいて後片付けをしたり、施設内の清掃をしたり、子どもたちのために道具を作ってあげたりなど、一生懸命仕事に取り組んでいました。施設の方々に感想を聞いたところ「このような体験はきっと将来のためになると思います。そして一人でも私たちの職業を選んでくれればうれしいです。」とおっしゃっていました。また「仕事を手伝ってくれて助かりました。もっといて欲しいです。」というれしい言葉ももらいました。２年生も来年の今頃は受験です。今回の体験が、将来を考えるきっかけになるととてもうれしいです。